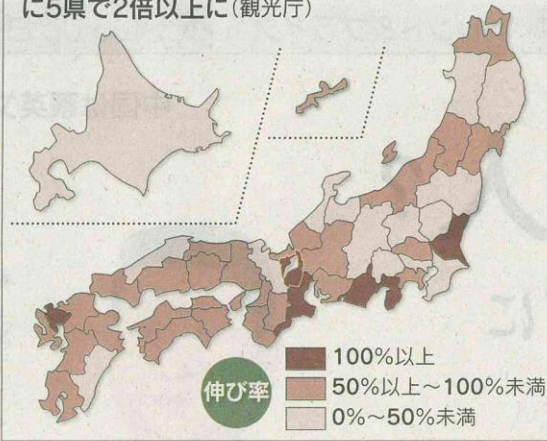


# 訪日客 地方も潤す

訪日外国人の急増が地方の宿泊施設や空港の経営に追い風となっている。外国人が2015年に宿泊施設に泊まった延べ日数は静岡や佐賀など5県で2倍超に増えた。中国などから地元空港への国際線の就航などで、宿泊需要も拡大したことが背景。羽田や新千歳など国が管理する27空港では免税店などの物販が好調で、営業損益が黒字に転換した。

観光庁によると、15年 増の6637万泊。調査の外国人の宿泊延べ日数 を開始した07年以降で過（人数に宿泊数を掛けた 去最高を更新した。東京（数値）は前年比48・1% 都が前年比34・7%増の

外国人宿泊延べ日数の前年比伸び率は2015年に5県で2倍以上に（観光庁）

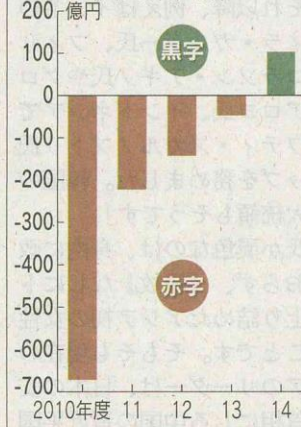


## 静岡など5県 宿泊日数2倍 黒字に転換

静岡など5県

国管理の27空港

国管理空港の営業損益（国交省、試算）



1777万泊で、全体の4分の1を占める。前年比の伸び率では静岡県が123・8%増の175万泊で首位となった。佐賀県（119・9%増の19万泊）、茨城県（115・2%増の20万泊）なども前年実績の2倍を超えた。

静岡県での急増は、静岡空港への国際線の新規就航が相次いだことが大きい。15年1月時点で3路線週11便だった国際線は鄭州や長沙など中国大陸部の都市からの路線が開設され、7月には13路線週49便に増えた。同県のホテル旅館生活衛生同業組合は「成田空港から入国して京都などに向かう観光ルートの途中で富士山が近い場所として宿泊需要も多い」という。茨城県でも昨年7月に茨城空港に深圳便、今年1月には杭州便が就航した。茨城県は「誘致に力を入れている海外からのツアーバスの増加」（観光物産課）も宿泊者増につながったとみている。

宿泊日数が倍増した県の多くは、東京や福岡などに近い。大都市ではホテル不足が深刻化しており、近隣の県が宿泊や観光の需要を一部取り込んでいる面もありそうだ。

訪日外国人が降り立つ空港の経営も改善している。国土交通省が今月まとめた試算によると、国管理の全国27空港の14年度の営業損益は102億円の黒字。13年度は46億円の赤字だった。同じ条件で比較可能な10年度以降では初めての黒字だ。空港の「本業」にあたる航空系事業は219億円の赤字だったが、赤字幅は前年度から1割強縮小した。一方、空港ターミナルビルの免税店を含む物販などの非航空系事業は5割強増の321億円

円の黒字となった。営業黒字を確保した国管理空港は羽田、新千歳、広島、松山、小松の5空港だった。新千歳は訪日客の受け入れ体制強化のため国際線ビルを19年までに拡張する計画だ。

国管理の定義から外れる成田、新関西国際、中部国際空港の15年4～9月期の中間決算も営業利益が前年同期比で軒並み2ケタ増となった。訪日外国人は増加基調が続いており、国管理空港の経営改善も続いているとみられる。